



日時 : 2018年10月6日(土) ~ 7日(日) 全国 【神奈川・川崎・新横浜・千葉】 ~ 8日(月)
1日目: 東神奈川イオン前7:50発→帰還困難区域(大熊・双葉・浪江町)→南相馬・食事処旭亭→野馬追
・雲雀ヶ原斎場他→道の駅・南相馬と仮設住宅→松島海岸新富亭 自宅含め5,900歩
2日目: 新富亭7:30集合→ウォーク・・・(福浦島で記念写真)・・・石田防災セター→弁当を受け取り食事
→石巻・旧大川小学校視察→河北IC→山形蔵王IC→蔵王温泉・ホテルルーセントタカミヤ20,600歩
3日目: 蔵王温泉→(蔵王ライン・蔵王エコーライン)→蔵王お釜と苧田峯神社→城下町白石(白石城
・武家屋敷寿丸屋敷と温麺番所・昼食)→白石IC→東神奈川到着 19:30 11,500歩
参加者: 合計33人

【神奈川】高橋(L) その他実行委員・勅使河原・吉越・河野・木村・畠

・佐藤よ・荒波・平石・熊坂・安永・伊藤真・青松・深瀬・長谷川慶・松村・清水靖

・橋本・金子・桑名・澤・井口 一般:長谷川征 安藤 24人 【新横浜】・加藤・藤本 2人

【川崎】・高倉・古田き・石田・古田よ・佐藤静 ・栗本 6人 合計33人

部屋割表資料では男59名女113名合計172名の参加予定でしたが、台風の関係で福岡5名が不参加のようです。地区別では盛岡40名に次いで、宮城あしがる会32名、神奈川26名は3番目です。

2023年富士以来毎年全国ウォーキングに参加し、レポーター役をやっていましたが今回はカメラバッテリー一充電器忘れて、2バッテリー分160枚しか撮れませんでした。風景主体になり申し訳ありません。今回の10月6日(土)夜松島での前夜祭、太鼓は素晴らしかったのですが、宴会会場が狭く席を立ての撮影も無理のようで諦めました。ウォーキングは3日間台風も避けてくれて天気も良く、特に心配していた蔵王お釜ガスもかからずすっきり見えて最高でした。昨年9月群馬県万座温泉2泊3日旅行、白根火山(2,160m)の湯釜に登り綺麗に見えましたが、よく似た火山と池で思い出しました。その後噴火で登れません。

10月6日(金) 東神奈川イオン前 7:23 7:50 出発①守谷SA 9:15~9:30 トイレ休憩



②中郷SA 10:45~11:00 トイレ休憩

③ならはPA 11:50~12:00 トイレ休憩



好天に恵まれ車窓の眺めも最高です・・・が原発被災地に近づくと黒ビニール・・・ バス車内担当紹介



被災地区に入りました ガレキの山と船、そして生き残り松 何とも言えぬ自然のなせる大震災&原発被災風景



発生日：2011. 3. 11日 14:46.18

震源：宮城県牡鹿半島沖 130 KM

震度：9.0 Mw

最大震度：栗原市 7 Mw

死者行方不明者：2018, 9, 10 現在
18,432人 P2

12:40 帰還困難区域（大熊・双葉・並榎町）を視察 請戸小学校跡視察 ここは避難して助かりました



原発と津波で被災した請戸小学校跡と避難場所（HPより）



さて、この出来事です、何が奇跡かという、上図の赤丸の部分、「請戸城跡」が高台の位置ですが、実はそこに誘導したのが先生ではなく、「生徒」であったのです。

我がチームも津波被害時の説明を神妙に聴きます

背景被爆土白いビニール袋が積み上げられている



ガイド 大内秀夫さんNPO法人馬土（のまど）所属
今我々がいるところは町で民家があった。

13:40 南相馬市原町区「旭亭」昼食



高橋実行委員長
挨拶後遅めの昼食
美味しく、ビールも
戴きました。



14:24 南相馬馬追 集合写真 32名 伊藤カメラマン入れて33名ですね!



相馬野馬追場 自然の丘利用斜面観覧席と駆け上り櫓 説明を聞く皆さん



放射線濃度0、210



相馬野馬追 (HPより引用) 毎年7月最終土曜日前後に開催される

年に一度、相馬野馬追の最大の見どころである、「甲冑競馬」や「神旗争奪戦」が行われる、相馬野馬追のメイン会場。広大な競馬場のまわりに、観覧席が用意されている。相馬野馬追の2日目には、この場所で、合戦さながらの熱闘が繰り広げられる。



14:45 道の駅南相馬と仮説住宅に移動 道の駅南相馬



祭参加の娘さんとワンちゃんも入れて、赤ちゃん抱っここの若ママにシャッターを押してもらい伊藤も入る



14:46 「道の駅南相馬」



屋台 御祭の余韻を味わう ホテル17:15到着



18:30 【新富亭前夜祭】開会オープニング「松島五大堂太鼓」



司会：盛岡ウォーキングクラブ会長 川村勝氏
挨拶：大会実行委員長・宮城県連盟理事長 柿崎勝
全国ウォーキング協議会理事長 松本和信氏

19:00 乾杯 懇親と食事
19:15 クラブ紹介
20:50 閉会 集合写真
21:00 お開き

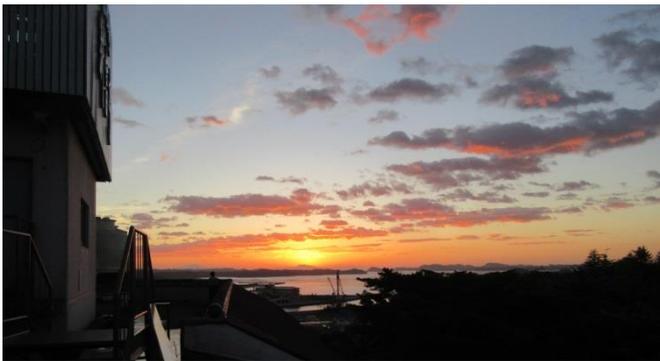
飲み物：ビール2人に1本、ソフトドリンク1人に1本
日本酒を追加で戴く。

席は狭く立ち回りは無理であり、そしてカメラ充電器忘れに気が付き今年は撮影控えました。悪しからず。

(P19に吉越さんの写真があります)

10月7日(日) 5:30

5:33 日の出 本館318号室窓から撮影



同部屋：平石・佐藤・長谷川・伊藤・新横浜の藤本5名 7:30 集合 伊藤は3班盛岡15名、神奈川13名

奈良2名 合計30名

緑色リボン

リーダー井原さん、サブリーダーは仙台と福島あしがる会



松島観光ウォーキングコース：①新富亭→②五大堂前→③福浦島入島→④五大堂入島→⑤瑞巖寺經由→

⑥雄島入島→⑦双観→⑧雄島入島→⑨松島海岸交番前→⑩西行戻しの松→⑪石田沢防災センター

3班11：20スタート リーダー井原（東北大出身で詳しい）・サブリーダー佐藤（千）・安孫子 ⑦双観は井原さんから皆さんの意見を聴いて止める。ここで5名車お迎え。⑫到着11：20弁当昼食、1番でした。



③福浦島への朱塗福浦橋（出会橋）

海苔 or 牡蠣？の手入れ

福浦島から朱塗の出会い橋を見る



福浦島は、宮城県松島海岸の東に浮かぶ面積約6ヘクタールほどの緑豊かな島。陸地とは全長252mの美しい朱塗りの「福浦橋」でつながっています。この橋は別名「出会い橋」とも呼ばれるロマンティックな橋。ここではステキな出会いが待っている！…かも、しれません。（HPから）

佐藤さんストレッチ



赤松越えの島素晴らしい眺め



集合写真（撮影は盛岡の櫻庭さん）



我が3班緑旗の左端だけの拡大写真を敢て撮る



福浦島

赤松と島々そして青い海と空に白い雲絵になり、詩に読まれます。松と島ぴったりです！青空と白い雲も背景に



弁天堂



この後行く「端巖寺五大堂」



朱塗橋を渡る



我が3班集合写真 「3入り緑旗」をお持ちの方が井原リーダー



ここからの赤松銘木



五大堂集合写真（逆光でお顔を出す為修正、空と雲が少し白っぽく・・・）



五大堂：日本三景の1つである景勝地・松島の景観上重要な建物であり、本州海岸に近い小島に建つ。伝承によれば大同2年（807年）、坂上田村麻呂が奥州遠征の際に、毘沙門堂を建立したのが始まりとされる。その後、円仁（慈覚大師）が延福寺（瑞巖寺の前身）を創建した際に仏堂を建立し、大聖不動明王を中央に東方降三世明王、西方大威徳明王、南方軍荼利明王、北方金剛夜叉明王の五大明王像を安置したことにより、五大堂と呼ばれるようになった。現在の堂は、慶長9年（1604年）、伊達政宗が瑞巖寺の再興に先立って再建した。東北地方最古の桃山建築と言われており、現在、国の重要文化財に指定されている。（HPより引用）

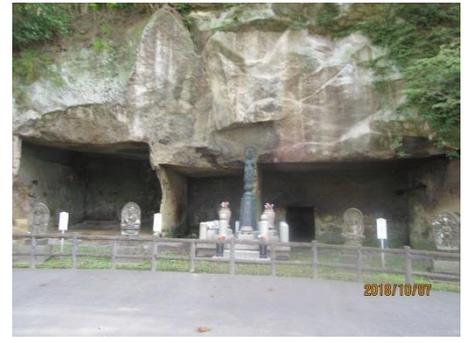
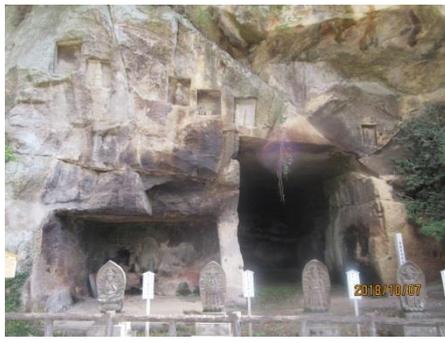
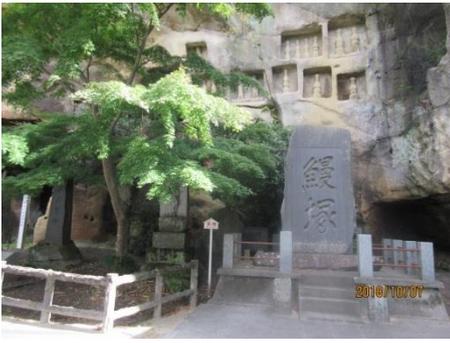
端巖寺



日本三景の一つ、松島にあり、山号を含めた詳名は松島青龍山瑞巖円福禪寺（しょうとうせいりゅうざん ずいがんえんぶくぜんじ）。平安時代の創建で、宗派と寺号は天台宗延福寺、臨済宗建長寺派円福寺、現在の臨済宗妙心寺派瑞巖寺と変遷した。古くは松島寺とも通称された。江戸時代前期の1689年に俳人松尾芭蕉が参詣した^[1]ことにちなみ、毎年11月第2日曜日には芭蕉祭が行われる^[2]。また、大晦日には火防鎮護祈禱である「火鈴巡行」と一般も撞ける除夜の鐘が有名である。境内には、「臥龍梅」と呼ばれる紅白二本の梅の木があり、伊達政宗の手植えと伝えられている。また、参道にはシンボルとも言える杉並木があったが、平成23年

（2011年）3月11日の東日本大震災の津波に見舞われ、その後の塩害によって立ち枯れが目立ったことから、約300本が伐採されることになった。同じ東北地方にある平泉の中尊寺と毛越寺、山形立石寺と共に「四寺廻廊」という巡礼コースを構成している。（HPより）

総門から入り右へ、洞窟遺跡（鎌倉にもあります）を見る。杉並木は震災津波でやられ植替。



園通院の前を通り雄島へ



奥の細道

雄島からの眺めは又格別です

小さな細い島が連なる



赤帽組のL皆さんご苦労様です。

朱塗りの渡月橋を渡ると、108の岩窟があったといわれる雄島。現在は50程度しか残っていませんが、その昔、死者の浄土往生を祈念した石の塔婆である板碑、岩窟の中には五輪塔や壁面に法名の彫られたものが多く、霊地の感があります。松島観光船の体験はありますが、歩いての島巡りはなく最高です。

展望小屋で一休み



朱塗の「渡月橋」を渡る 9:45

座禅堂



10:47 「西行戻しの松」



西行戻しの松からの眺め



西行戻しの松公園（さいぎょうもどしのまつこうえん）（HP から引用）
西行法師が諸国行脚の折り、松の大木の下で出会った童子と禅問答をして敗れ、松島行きをあきらめたという由来の地。この公園の一带は260本余の桜の名所で、展望台からは桜と松島湾の景色が一体となった、他に類をみない花見が味わえます。町道松島パノラマ線を利用すると便利です。



10:56 雄島から浜傍海岸に戻り休憩。次の「双観山」は井原しの提案で止める。ここから5名車を呼ぶ。



その後ゴールの「石田防災センター」へ11:20
1番到着。弁当とお茶を戴く。センター内で食べる。



←弁当です

12:08 防災センターを後にしてバスに乗る。北上川か？被災地石巻市立旧大川小学校へ向かう。



13:14 道の駅「上品の郷」トイレ休憩



足湯「ふたごの湯」覗いてみる

被災地旧大川小学校視察



吉越・熊坂さん代表で献花



バスは北上川の堤防を上流に向かって走り、堤防右は川の水面と同じ位の平地（民家整理草地）にぽっかりとある旧大川小学校。資料と説明を受けたが我々東京地区も大震災が来ることを前提にHPで再学習しました。次頁戴いた資料と説明して戴いたお話とダブるかもしれませんが参考までに。

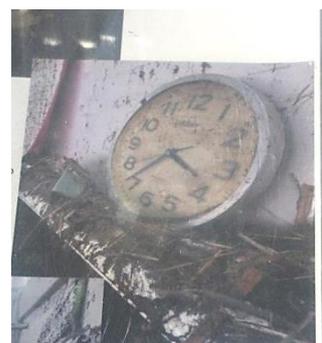
石巻市立大川小学校被災状況（HPより引用） この教訓は全国及び関東でも徹底していると思うが・・・

2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に伴う津波が本震発生後およそ50分経った15時36分頃^[4]、三陸海岸・追波湾の湾奥にある新北上川（追波川）を遡上してきた。この結果、河口から約5kmの距離にある学校を襲い^[5]、校庭にいた児童78名中74名と^{[6][7][8][9]}、教職員13名中、校内にいた11名のうち10名が死亡した^{[10][11]}。スクールバスの運転手も死亡している^[12]。学校の管理下にある子どもが犠牲になった事件・事故としては戦後最悪の惨事となった^[13]。

地震後の学校の対応^[編集]本震直後、校舎は割れたガラスが散乱し、余震で倒壊する恐れもあった。教師らは児童を校庭に集めて点呼を取り全員の安否を確認したのちに、避難先について議論を始めた。学校南側の裏山に逃げた児童たちもいたが、教諭に「戻れ！」と怒られ、連れ戻された。校庭のすぐそばには裏山を登るための緩やかな傾斜が存在し、児童らにとってシイタケ栽培の学習でなじみ深い場所である裏山は有力な避難場所であったが、悪天候（降雪）により足場が悪いことなどから、登って避難するには問題があるとされていた^{[14][15][16]}。教職員の間では、裏山へ逃げるといふ意見と、校庭にとどまり続けるといふ意見が対立した。避難所でもある小学校にすでに避難してきていた老人がいることから、裏山ではなく、約200m西側にある周囲の堤防より小高くなっていた新北上大橋のたもと（三角地帯）へ避難するという案も上がった。市教委の報告書によれば「教頭は『山に上がらせてくれ』と言ったが、釜谷（地区の）区長さんは『ここまで来るはずがないから、三角地帯に行こう』と言って、喧嘩みたいに揉めていた」という。この議論の間、20家族ほどの保護者が児童を迎えに来て、名簿に名前を書き帰宅していった。大津波警報が出ていることを報告した親もいた。教師たちは「学校のほうが安全」「帰らないように」「逃げないほうがいい」などと言い、逆に保護者達を引き留めたという。実際に引き留めに応じた母親（津波により死亡）が、15時29分に「子どもと学校にいます。」と夫に向けてメールを送っている。また、山に逃げたものの連れ戻された児童らが「津波が来るから山へ逃げよう」「地割れが起きる」「ここいたら死ぬ」と教師に泣きながら訴えている光景が、このときの保護者達により目撃されている^{[16][17]}。最終的に三角地帯に避難することになり、教職員と児童らは地震発生から40分以上たってから移動を開始した。防災無線は「海岸線や河川には近づかないでください」と呼びかけており、このときすでに、町の側溝からは水が噴き出し、堤防からは水があふれ始めていた^[18]。津波の到達^[編集]津波は、鉄筋コンクリートの壁を突き破り、すべてを飲み込んだ。児童らが県道に出た直後、堤防を乗り越えた巨大な津波が児童の列を前方からのみ込んだ。列の後方にいた教諭と数人の児童は向きを変えて裏山を駆け上がり、一部は助かったが^[19]、迫りくる津波を目撃して腰を抜かし、地面に座り込んで避難できない児童も居た^[20]。家族が車で迎えに出向き、独自に避難した児童は助かった^[20]。避難先として選定した三角地帯も標高不足で津波に呑み込まれており避難が完了していても被害は避けられなかった^[20]。避難先の北上川堤防付近の標高は6~7mであったが^[13]、予想津波高は15時14分には当初の6mから10mに変更されていた^[21]。当時得られた情報から想定を超える規模の津波の到達を予見できたか否かは、後に起こされた民事訴訟で争点となった^[13]。

鉄筋コンクリート2階建て校舎

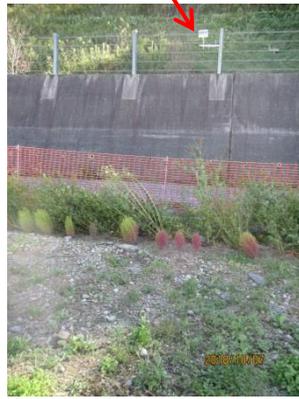
野外ステージもある時計15:42で止まっている 中庭から見る



裏山はすぐ傍なのに・・・



津波浸水した水位



標高と地図 標高約1mの小学校にしては津波や堤防破壊情報が・・・

地点	標高	位置
当校	約1m	地図
「三角地帯」	6.69m	地図
裏山（林道）	約75m	地図

被災大川小学校 周辺地図



養生PA 15:40～15:50トイレ休憩



この後蔵王温泉に向かう。

村田JCTから山形自動車道へ入り、

【ホテルルーセントタカミヤ】へ予定通り17時過ぎに到着しました。すぐ温泉に入りましたが、白濁で露天風呂「葉隠れの湯」は最高でした。露天の湯加減はぬるめでゆっくり癒すことができました。

源泉 100% 掛け流し。

蔵王温泉特有の強酸性の硫黄泉は皮膚病、胃腸病、眼病、傷に効果があり、肌を白く滑らかにする「美人づくりの湯」「子供が元気に育つ湯」と言われています。岩風呂、露天檜風呂→

昨年9月に行った白根山湯釜、万座温泉プリンスホテルと万座高原ホテルの露天風呂を思い出す。白・黄・青・緑等男女タオルを巻いて混浴出来る。以後白根山湯釜は噴火で登山禁止です。

部屋も今回は402号室10畳で4人、コタツ付きでゆったりでした。宴会場は1階椅子席で貸し切り。カラオケも準備されダンスも出来るとのことで、川崎御高齢の高倉さんの相手役を頼まれました。誰でも踊れるジルバを希望され皆さんも一緒に踊るのかと思いきや我が1組のショーダンスになり失礼しました。カラオケもやりましたがこちらは名歌手揃いで盛り上がり、NHK並みに2番で打ち切り。学生時代は混声、男性合唱団でバリトンをやっていましたが、定年後得意の低音が出ず耳鼻咽喉科で見てもらおうと咽喉仏左右大きさが違い変形しており女性の歌が多くなりました。お陰様で学生時代を思い出させて戴き楽しく飲ませていただきました。401号室で2次会。おつまみとお酒焼酎も用意され幹事の皆さん気配りに深く感謝します。



3日目：10月8日（月）晴れ 6：45青松さんと散歩するもスキー場ゲレンデだけ



8：02ホテルの窓から紅葉とスキー場

9：04蔵王紅葉と五色岳が見えてきた



蔵王お釜9：10～9：45

お釜をぐるり回る人も見えました



赤帽の我がチーム 五色岳とお釜がきれいに見えます

佐藤カメラマン五色岳とお釜背景集合写真撮影



蔵三山メートル指道標



荊田峰神社へ参拝



神社から見る五色岳とお釜



山を下る車窓からの写真わずかに紅葉

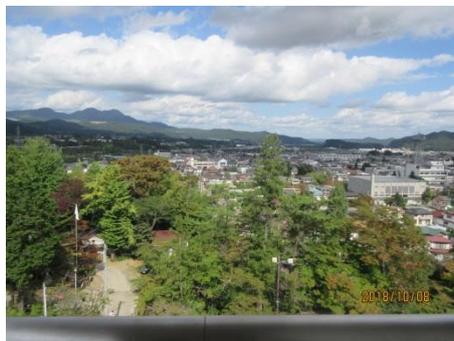


白石城 11:13~ ガイドさん付



3階屋上から東西南北を眺める

西側から蔵王が見える



お城は殆んど鉄筋コンクリートで再建されるがこの城は天然木です

この後お濠武家屋敷を巡り昼食会場へ



城の周辺堀際には武家屋敷が保存され並んでいる。昼食前散歩に良いコースでした。

白石城（HPより引用）

主として仙台藩伊達氏の支城として用いられ、片倉氏が代々居住した。九州の八代城などと並んで、江戸幕府の一国一城制の対象外とされて明治維新まで存続した。天守の代用となっていた三階櫓は、支城という格と幕府への配慮から天守の名をはばかり大櫓と名づけられたとされる。かつての城は、本丸、二の丸を中心に、幾重にも外郭を備えた堅城であった。虎口のうち、大手門付近には幅が変化し、鍵の手に折れる通路など、特に工夫がみられる。

昼食「温麺番所」はもうすぐですよ！ 「奥州街道 うーめん番所」 12:08～12:42 別棟部屋



吉永さゆりも食べたところ（その写真）

床の間に座る

14:17お土産を買う



16:09都賀西方PA

17:58川口PA



今回バスの中でのお酒は各自で買って下さいとのことでカップ酒を買う。静かに飲み最後の川口PAではアイスクリームのおやつ。東神奈川には予定通り19:30到着。我が家20時過ぎ到着。

編集後記：3日間天気にも恵まれた全国大会でした。松島は皆さん来ておられると思いますが島を歩いて周るのは初めての方が多かったようです。又我々若いときは橋もなかったかもしれません。小生は九電原発炉中に入って見学もしましたが震災で漏れると大変なのが改めて痛感しました。最後の蔵王お釜先述の白根山湯釜を思い出し、ガスもかからず最高でした。全国ウォーキング2013年富士以来、熊野古道・山古志・姫路・伊豆と連続6回参加していますが、交流会で全国を歩くのもいいものです。これからも頑張りましょう！来年は5月25日（土）～26日（日）岐阜恵那峡です。幹事の方ご苦労様でした。いつものボケ防止用日記帳メモと写真です。誤記や失礼な記述があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用しました。

【追加：前夜祭 松島海岸 新富亭 会食会場】 吉越さん撮影 「カンパ〜イ」我がグループ頭の薄い人は？



【余白番外編】 本文中にも記述しました箱根白根山湯釜の写真、未体験の方の参考までに記載しました。

2017年9月4日（月）群馬県軽井沢から草津温泉近く箱根白根山（2,160m）の湯釜



バス停から杖を借りて登る約30分。11:33湯釜到着。ガスのかかり初めでしたがハッキリ見えました。直径300m、水深30m、水温約18℃の火山口。PH1、0前後。2014.6.3~2017.6.15まで立ち入り禁止。我々が登山した後も立ち入り禁止で現在も継続している様です。